

8. 木曾保健所管内で発生したバイケイソウによる食中毒発生事例

丸山起人¹⁾、藤森義一¹⁾、松岡裕之²⁾、西垣明子¹⁾

¹⁾ 長野県木曾保健福祉事務所, ²⁾ 長野県伊那保健福祉事務所

キーワード：有毒植物、バイケイソウ、オオバギボウシ（ウルイ）

要旨：平成 28 年 5 月、木曾保健所管内でバイケイソウの誤食による食中毒が発生した。喫食植物の確認により、速やかな原因植物の特定が可能であった。長野県内で昭和 51 年から平成 27 年までの 40 年間に報告された有毒植物による食中毒事例の 2 割がバイケイソウによるものである。山野草の採取や喫食に対して引き続き積極的な注意喚起が必要と考えられた。

A. 目的

平成 28 年 5 月、木曾保健所管内で有毒植物であるバイケイソウによる食中毒が発生したので、その概要について報告する。

B. 方法

食品衛生監視員が、患者及び医師に、植物採取の状況、調理・喫食状況、症状等について聞き取り調査を行うとともに、喫食植物の確認を行った。

C. 結果

①事件の探知

5 月 2 日午後 2 時ごろ、木曾広域消防本部から「ウルイと間違えて採取したバイケイソウを食べ、胃腸炎症状を呈したと考えられる患者を医療機関に搬送する」旨の連絡があった。

②木曾保健所による調査

患者（男女 2 名）は、前日に木曾郡内自宅周辺の川付近で山野草を採取し、翌日の昼食におひたしにして喫食したところ、約 30 分後に男性が腹部違和感、むかつき、嘔吐の症状を呈した。女性は自力で嘔吐したが、口唇周囲の違和感、麻痺を訴え、2 名とも郡内医療機関に救急搬送され、入院となった。女性は喫食約 4 時間後にめまい、吐き気、嘔吐等の症状を呈したが、2 名とも翌日には症状が改善し、退院となった。

受診時に患者が持参した植物を確認したところ、有毒植物のバイケイソウであり、症状も一致したことから、バイケイソウによる食中毒と断定した。

D. 考察

有毒植物には成分としてアルカロイドを含むものが複数あり、中毒症状が類似していること、また、調理後は植物の特徴がわかりにくくなってしまうことから、原因植物の特定は困難であることが多い。今回は、患者からバイケイソウを採取・喫食した可能性がある旨の訴えがあったことに加え、調理前の植物の提供を受けたことから、速やかな原因植物の特定に至った。

昭和 51 年から平成 27 年までの 40 年間に長野県内では有毒植物による食中毒が 15 件（患者数 50 人）発生しており、そのうちバイケイソウによるものは 3 件（同 10 人）であった。今回はバイケイソウをオオバギボウシ（ウルイ）と誤って喫食したが、他にも、ハシリドコロやシュロソウなどの有毒植物をオオバギボウシと誤って誤食した食中毒事例が過去に県内で報告されている。特に芽生えの時期には注意が必要な山野草である。

今回の経験を通して、住民等への注意喚起及び山野草の採取や喫食に関する知識の普及啓発が重要であることを再確認した。

E. まとめ

平成 28 年 5 月に木曾郡内でバイケイソウを原因とする食中毒事例を経験した。長野県内で昭和 51 年からこれまでに有毒植物による食中毒報告事例の 2 割がバイケイソウによるものであり、山野草の採取や喫食について引き続き積極的な注意喚起が必要と考えられた。

F. 利益相反

利益相反なし



患者から提供されたバイケイソウ